

世界自然遺産への道のり

世界自然遺産とは

人類共通のかけがえのない財産として、将来の世代に引き継いでいくべき宝物。それが世界遺産です。

世界遺産は「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)に基づいて登録され、自然遺産、文化遺産、複合遺産の3種類があります。このうち、我が国での世界自然遺産には、現在、知床(北海道)、白神山地(青森県・秋田県)、屋久島(鹿児島県)、小笠原諸島(東京都)の4ヶ所が登録されています。

世界自然遺産登録に向けた取組

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」は平成15年に「世界自然遺産候補地に関する検討会(環境省と林野庁が共同で設置)」において、日本の世界自然遺産候補地の一つとして選定されました。その後、日本政府は、平成28年の世界遺産暫定一覧表(暫定リスト)への掲載を経て、平成31年2月1日にユネスコ世界遺産センターに世界遺産一覧表記載のための推薦書を提出し、国内で5ヶ所目となる世界自然遺産の登録を目指しています。

世界自然遺産に登録されるためには、「顕著で普遍的な価値を有する」だけでなく、「その価値が将来にわたって守られる」ことが求められます。そのため、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」世界自然遺産推薦地では以下のような取組を進めています。

取組1 保護地域の指定・拡張

環境省では法律に基づいた保護措置を図るため、平成28年に「西表石垣国立公園」の大規模拡張により西表島のほぼ全域を国立公園に指定するとともに、平成28年に沖縄島北部において「やんばる国立公園」を、平成29年に奄美大島及び徳之島を含む地域を「奄美群島国立公園」に新規指定しました。さらに、平成30年には「やんばる国立公園」を拡張して、米軍北部訓練場の返還地を国立公園に編入しました。

取組2 保全・管理の充実

推薦地の顕著な普遍的価値を保全するため、関係行政機関や地域住民をはじめとする多様な主体が協働し、侵略的外来種の防除事業の実施、ネコ・イヌによる影響の排除・低減、希少種の違法採取や交通事故の防止、適切な観光管理の実現などに取り組んでいます。



捕獲されたマングース



密猟・盗掘防止パトロール

出典「琉球の自然史」(1980, 築地書館(東京))
Geographic patterns of Endemism and Speciation in Amphibians and Reptiles of the Ryukyu Archipelago, Japan, with Special Reference to their Paleogeographical Implications (Res. Popul. Ecol. 40(2), 1998 pp. 189-204.)

日本の世界自然遺産

知床 | 北海道

面積: 約 71,100 ha
登録年: 2005 年

白神山地 | 青森県・秋田県

面積: 約 17,000 ha
登録年: 1993 年

小笠原諸島 | 東京都

面積: 約 7,900 ha
登録年: 2011 年

屋久島 | 鹿児島県

面積: 約 10,700 ha
登録年: 1993 年

情報発信と普及啓発施設

●公式ホームページ

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産候補地
URL: <http://kyushu.env.go.jp/naha/amami-okinawa/index.html>



●施設・事務所

環境省では4地域それぞれの施設・事務所に自然保護官を配置し、本推薦地に関する情報提供や普及啓発に取り組んでいます。

奄美野生生物保護センター

住所: 鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551
TEL: 0997-55-8620
HP: <http://kyushu.env.go.jp/okinawa/awcc/>



徳之島管理官事務所

住所: 鹿児島県大島郡天城町平土野2691-1 天城町役場 4F
TEL: 0997-85-2919

やんばる野生生物保護センター

住所: 沖縄県国頭郡国頭村字比地263-1
TEL: 0980-50-1025
HP: <http://www.ufugi-yambaru.com/>



西表野生生物保護センター

住所: 沖縄県八重山郡竹富町字古見
TEL: 0980-84-7130
HP: <http://iwcc.a.la9.jp/>



奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産推薦地

環境省 沖縄奄美自然環境事務所



目指せ!!
奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島
世界自然遺産

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙をリサイクルできます。

環境省 沖縄奄美自然環境事務所

〒900-0022 沖縄県那覇市樋川1丁目15番15号 那覇第一地方合同庁舎1階
TEL.098-836-6400 FAX.098-836-6401

独特の気候と地史



世界自然遺産推薦地である「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」は、北緯 24 度～30 度に位置する亜熱帯地域です。世界の亜熱帯地域のほとんどが砂漠や乾燥した草原であるのに対して、本地域は、黒潮と亜熱帯性高気圧の影響で温暖・湿潤な亜熱帯海洋性気候となるため、森林が成立しています。

また、本地域は 1,200 万年以上も昔にはユーラシア大陸の一部であり、その後の激しい地殻変動や海面変化により、ユーラシア大陸や日本本土との分離、近隣の島間での分離・結合を繰り返し、現在の島々になりました。

生命の息吹を感じる 豊かな森 生物多様性の島々

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」は、
2020年夏の世界自然遺産登録を目指します

希少種が多く見られる 代表的な地域

本地域は豊かな亜熱帯の照葉樹林やマングローブ林などの多様な自然環境を有し、IUCN レッドリスト掲載の絶滅危惧種 95 種を含む世界的に独特で重要な絶滅危惧種や固有種の生息・生育地となっています。日本全国で確認されている絶滅危惧種のうち、本地域に見られる種の割合をみると、維管束植物で 55%、陸生哺乳類で 38%、両生類で 60%、昆虫類で 56%となっており、本地域が生物多様性の保全にとって極めて重要な地域であることが分かります。



西表島

西表島には、古見岳(469m)や御座岳(420m)などの山々が連なり、原生状態に近い亜熱帯照葉樹林やマングローブ林、我が国最大規模のサンゴ礁(石西礁湖)を有するなど、手つかずの自然が残されています。山地は雲霧帯を有するため、ランやシダなどの着生植物が多く、イリオモテヤマネコ、ヤエヤマセマルハコガメなどの八重山固有の生物が生息しています。



生物の 宝庫

本地域には、ここでしか見られない生物が数多く分布しています。特に、昔は広く大陸などにも分布していた生物が島々に隔離されたことで、大陸にいた共通の祖先が絶滅した後も昔ながらの形態をとどめながら生き残ってきた「遺存固有種」や、各々の島の環境に適応するよう独自の進化を遂げた「新固有種」の存在は、地史を反映した生物進化の過程を示す顕著な見本となっています。



奄美大島



奄美大島の中央部・南部では、湯湾岳(694m)や油井岳(484m)などの山塊から海域まで豊かな亜熱帯照葉樹林が連続しています。これらの森林では、アマミノクロウサギ、アマミトゲネズミ、ルリカケス、オットンガエルなどの遺存固有種やアマミヤマシギなどの希少種の生息地となっています。また、役勝川や河内川などの河川にはリュウキュウアユが生息しています。



徳之島

徳之島は、北部の天城岳(533m)や中央部の井之川岳(645m)から犬田布岳(417m)にかけて広がる山塊が豊かな亜熱帯照葉樹林に覆われており、アマミノクロウサギをはじめ、オビトカゲモドキやトクノシマトゲネズミなどの遺存固有種の生息地となっています。



沖縄島北部

沖縄島北部(やんばる)の与那覇岳(503m)や西銘岳(420m)が連なる山塊では、豊かな亜熱帯照葉樹林が広がっています。これらの森林には、空を飛ばないヤンバルクイナや木に穴を掘り営巣するノグチゲラ、樹上で活動し木のウロを寝床にするケナガネズミ、一生のほとんどを樹洞で生活するヤンバルテナゴコガネなど、固有の生物が数多く生息しています。

